



懸け橋

練馬区立石神井西中学校
学校だより 第7号
平成27年11月20日
校長 松丸 晴美

「子どもいじめ防止サミット」始まる！

「みんながよく知っているドラえもん。いじめっ子は誰でしょう？」

小中連携児童・生徒交流の取組のひとつとして実施した「第一回 いじめ防止サミット」の結びに、小学校の校長先生から子供達に問いかけられた質問です。

「やっぱりジャイアンでしょう。いやスネ夫かな？」・・・正解はないそうです。

一昔前であれば、「いじめっ子」が誰かは日頃の子供の様態からだいたい想像がつかしました。しかし、昨今のいじめは複雑化・潜在化し、子供達の表面的な様子だけではなかなか発見が困難になっています。

「いじめ」はどの子供にも、どの学校でも起こる可能性がある問題です。

親や教師が子供の変化に注意を払おうと努めても、四六時中そばにいて見守ることは不可能であり限界があります。

いじめのない学校づくりには、子供達自身がいじめ問題と向き合い、防止や解決につなげていく意識を高め、行動していくことが欠かせないのではないのでしょうか。

児童・生徒がともに「いじめ」を題材に集い・交流する「いじめ防止サミット」は、小中一貫教育研究が始まった今年度、待望していた取組です。

サミットでは、中学生が設問を考えた事前アンケートを本校と立野小、石西小、関町小の4校で実施し、集計・分析した結果を発表し合い、その後児童・生徒が互いに「いじめゼロ」に向けて活発に意見を出し合いました。

小学生の発表はどの学校も具体的な内容がわかりやすくまとめられており、素晴らしかったです。10月に認証された後期生徒会役員にとっても大きな刺激、勉強になったと

思います。

子供達の提案の中でいいなあと思ったのは、「はげまし係」と「わかっているよ目線」です。

アンケートの「あなたはいじめを目撃しましたが、なぜ、止めることができなかったのでしょうか?」、「どうして、やめようよと言えなかったのでしょうか?」という設問に対して多かった記述は、「次に、自分がいじめのターゲットになるかもしれないから」というものでした。

「勇気を出して」とか「傍観者にならないように」と言うことは簡単ですが、実行するには、ハードルが高い子供も多いはずで

自分の良心に照らしてできるせいっぱいの行為が「いじめられている子をそっと励ます」、「あなたがいじめられているのはわかっているよ。止められなくてごめんね」目線を送ることなのかもしれません。

さすが中学生！と感じたのは「いじめを身近に感じられる環境をつくり、ポスターを作ったり、キャンペーンをしたり・・・」という意見でした。

今後、このサミットで得たことをそれぞれの学校に持ち帰り、「いじめゼロ」に向けた実効的な取組が展開されると思います。

これからが本校の伝統である「自由と自治」の発揮どころだと期待しています。



平成27年度 道徳授業地区公開講座より 各学年、各学級の様子を紹介します。

【1年生】 1年E組 担任 半田 美佳 教諭



「世界に誇る日本の心」をテーマに、柔道を通して思いやりの心について考えました。

主人公は強い選手ではあったが、勝てばいい、強ければいい、という一面があり、対戦相手に対して態度や挨拶もままならなかった。先輩の試合を見て、投げられた相手が頭を打たないように最後までしっかり袖を離さずにいたこと、相手を敬う姿勢が挨拶に表れていたことに気付いた。お互いを尊重し合うことが柔道の心であり、日本の心であることを顧問

の話から気付き、本当の柔道選手を目指すようになる。

本当の柔道選手とは？日本の文化として大切にしていきたいことは何なのか話し合いました。

本当の柔道選手とは、柔道を通して人として成長できる人、勝ち負けでなく相手を敬い、思いやることができる人。日本の文化として大切にしていきたいことは、道具や相手への感謝の心を忘れないこと、人を敬う気持ち、礼儀、優しい心、などが意見として発表されました。

【2年生】 2年B組 担任 百田 果 教諭

資料名「六千人の命のビザ（杉原千畝）」

杉原千畝の生き方を通して、国際的な視野に立って世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする姿勢について考えました。杉原は、日本の外交官という立場でありながら、迫害から逃れるためにビザ発行を懇願するユダヤ人を目の前に、国の命令に背いてビザを発行する決意をし、約六千人の命を救った人物です。



自分だったらビザを発行するかを考えたときに、発行しない（できない）という意見や、想像しがたい空気がありましたが、杉原の決意を見取り、「命令に背いてでもユダヤ人を助けたい」、「（ビザを発行できるのは自分しかいないから）六千人の命がかかっているという責任感」、「自分を犠牲にしても助けてあげたい気持ち」、という、仕事の立場より、「人々を守りたい」という人間的な意思や正義感が勝ったのだということがわかってきました。立場を超えて、人間として大切なことを考える貴重な機会になりました。

【3年生】 3年B組 担任 菅原 昌代 主任教諭

資料名「夢は見るものではなくかなえるもの（澤穂希）」

夢や目標をもつことの大切さや、夢を実現する上で、感謝する気持ちも忘れてはいけないことを学びました。他の人たちの意見を聞きながら、自分の考えを深め、今後の目標につなげ、前向きに頑張ろうと心に決めた人が多かったようです。



生徒の感想では、「自分が将来かなえたい夢や目標が見つかったら、諦めずに挑戦していくことが大切だと思った。澤選手のように、自分に不利な環境の中にも、自分が誰かのためになれると思って頑張っていきたい。」「私も小学校の野球チームに女として入ることに、最初は不安もありましたが、昔の先輩がいてくれたから、チームに入れたのだと感じ、改めて感謝したいと思った。」「自分の夢や目標に向かって努力をすることのすばらしさを改めて感じた。努力した分だけ結果が返ってくるということは本当だと思った。自分も夢や目標を見つけて夢中になってみたいと思った。」などがありました。

最後に、生徒が「座右の銘」を考えました。いくつか紹介します。「後でやろうはバカヤやろう」「我流こそ我が人生なり」「悲しき思いも涙も経験も笑顔への道しるべだから」などがありました。

オリンピック・パラリンピックと道徳の関係は？ 道徳授業公開講座 講演会

生涯学習部主任 三岡 一隆 主幹教諭

11月14日(土)の2時間目、「オリンピックを通して気付けた人間的価値」という演題で講演会を行いました。講師のフェリス女学院大学の和田浩一先生は、以前に中学校の体育の教員もされていたそうで、興味深いスライドや動画などとともに、わかりやすく興味深い講演をして頂きました。

国家間や民族間のお互いへの「無知」が、憎しみや戦いの原因になること、それを解消しようと近代オリンピックが始まったこと、優勝する者は「優」れているだけでなく「優」しさも合わせもつべきであること、など、オリンピックの歴史や理念を学ぶことができました。最後の謝辞で、生徒会長の小田部さんが、「東京オリンピックの時私たちは19歳。今日学んだことを忘れず生かしたいです。」と話していたことに頼もしさを感じました。



小学生と一緒にあいさつ運動を行いました。



小中一貫教育推進校 児童・生徒交流部会部長 本田 貴志 教諭
10月27日(火)～30日(金)の4日間、朝8:15～25の約10分間で関町小・立野小・石西小の3小学校と合同であいさつ運動を実施しました。初日は緊張していた小学生でしたが、二日目以降は大きな声を出して挨拶をしてきていました。このあいさつ運動で中学生は小学生から元気をもらうことができました。小学生も中学生と一緒に活動したことで、「中学校に入るのが楽しみになりました。」とコメントをしてくれた子もいました。今後、挨拶をきっかけに小学生とのさまざまな交流ができると良いと思います。

職場体験の事後学習で、各学級の代表者が報告会を行いました。

生涯学習部 2年副担任 宮内 稜大 教諭

10月30日(金)の6校時に、体育館で第2学年職場体験報告会が開かれました。同月23日(金)に行われたクラス発表会と新聞の掲示発表を生徒たちが総合評価し、各クラス2名ずつ選出しました。選出された生徒たちは、仕事内容や、あいさつの大切さ、事業所の方が抱く仕事のやりがい、仕事の大変さ、お客様を案内などした後に感謝されたときの喜び、など職場体験を通して学んだことを発表していました。堂々とした発表や発表を聞く生徒たちの様子などから、生徒たちの成長した姿を見ることができました。



【諸活動の記録】

○すこやか一声運動標語

優秀賞 2年D組 渡邊七海 佳作 3年D組 松田有弘

○中学校の主張 東京大会 会長特別賞 3年F組 榎本琢人

○自分で作る朝ごはんコンクール

銅賞 2年F組 松崎凜々子

奨励賞 2年A組 賀来大夢、金子雄星、籠利優子、川崎紫響、三木麗花、

2年B組 小林尚史、田中晴乃、新井彩夏、井口歩美、大久保志帆、

2年C組 窪田優菜、2年D組 若佐日和、渡邊七海、2年E組 田中涼葉

2年F組 井口紗実、川崎青蘭、新妻杏奈、松島里紗

○柔道部 練馬区新人大会 男子73kg級 2年D組 大塚雄斗

○男子バスケットボール部 練馬区新人戦 第3位

1回戦 石神井西中 107対23 関中

2回戦 石神井西中 86対45 貫井中

3回戦 石神井西中 93対44 三原台中

決勝リーグ

石神井西中 105対56 石神井東中

石神井西中 58対69 練馬中

石神井西中 44対85 中村中

○女子バスケットボール部 練馬区新人大会 優勝

1回戦 石神井西中 81対5 石神井東中

2回戦 石神井西中 65対32 豊玉中

3回戦 石神井西中 115対37 大泉中

決勝リーグ

石神井西中 100対33 光が丘二中

石神井西中 86対49 谷原中

石神井西中 85対59 中村中

○野球部 石泉大会 第3位

1回戦 石神井西中 3対1 南が丘中

2回戦 石神井西中 8対1 大泉北中

準決勝 石神井西中 2対3 三原台中

【顧問より】春に向けて努力を続けよう。

○卓球部 区民大会(男子) 第3位

個人戦 準優勝 3年F組 佐東智也

第3位 2年F組 来生京介

練馬区新人大会(男子) 第3位

準決勝 石神井西中 1対4 田柄中

3位決定戦 石神井西中 3対2 石神井南中

個人戦 第3位 2年F組 来生京介

練馬区新人大会(女子)

1回戦 石神井西中 2対3 北町中

個人戦 第5位 1年A組 鈴木菜々子



顧問より

決勝リーグ2敗で3位。この悔しい思いを都大会にぶつけてきます。

顧問より

なんとか優勝することができましたが、気を緩めず都大会のぞみます。

顧問より 男子は団体と個人での入賞おめでとう。女子は(1年)は、来年の入賞に向けて努力していきましょう。

男子は、都大会で1つでも多く勝ち進めるよう頑張ってください。